



TITLE:

天象

AUTHOR(S):

---

CITATION:

天象. 天界 1934, 14(154): 158-160

ISSUE DATE:

1934-01-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/165473>

RIGHT:



## I—太陽と月 (天空の明暗)

日付	日出 (座)	日没	日付	月齢	月出 (座)	月没
日	時 分	時 分	日	日	時 分	時 分
1	6 56 (山 羊)	17 23	1	15.6	18 56 (し 子)	7 39
6	6 53	17 30	2	16.6	19 55	8 4
11	6 47	17 35	3	17.6	20 54	8 29
16	6 45 (水 瓶)	17 40	4	18.6	21 54 (乙 女)	8 54
21	6 38	17 44	5	19.6	22 57	9 20
26	6 31	17 49	6	20.6	—	9 39
二月14日の皆既日食 ボルネオ島の			7	21.6	0 4 (天 秤)	10 21
西方洋上より起りセレベス、ニューギ			8	22.6	1 9	11 13
ニヤ島の北を通り太平洋を北東に横断			9	23.6	2 23 (さ そ り)	11 52
してカナダの沖に終る。皆既食帯は殆			10	24.6	3 31 (へびつかい)	12 57
んど洋上を走るので観測には都合悪く			11	25.6	4 32 (い て)	14 8
我國ではわずかにカロリン群島のロン			12	26.6	5 24	15 24
プ、オロルクの二島が含まれてゐる。			13	27.6	6 10 (山 羊)	16 40
我國よりは京大及東京天文臺の観測隊			14	28.6	6 45	17 55
がロソツプ島に遠征する。同島に於け			15	0.6	7 18 (水 瓶)	19 5
る皆既の繼續時間は2分9秒で太陽の高			16	1.6	7 40 (う を)	20 14
度は約55'である。猶今回の皆既食は			17	2.6	8 14	21 20
アインシュタイン効果の検証にはかなり			18	3.6	8 43	22 24
よい星野である。日本各地では部分食			19	4.6	9 13 (ひ つ じ)	23 19
が見られるから、次に豫報を掲げる。			20	5.6	9 47	—
			21	6.6	10 25 (う し)	0 30
			22	7.6	11 8	1 31
			23	8.6	11 57	2 26
			24	9.6	12 51 (双 子)	3 17
			25	10.6	13 49	4 5
			26	11.6	14 48 (か に)	4 38
			27	12.6	15 48	5 14
			28	13.6	16 47 (し 子)	5 41

地 名	食 分	初 虧 (方向角)	食 甚	復 圓
ロソツプ島	1.03	8h 41.m4	237°	10h 6.s 4
札幌	0.25	8 51.5	191	9 42.7
東京	0.32	8 30.4	197	9 28.2
京都	0.30	8 24.8	197	9 19.7
京城	0.23	8 24.1	193	9 9.7
臺北	0.43	6 45.6	212	7 40.6
				8 41.5

## 昭和九年二月の夜の天空

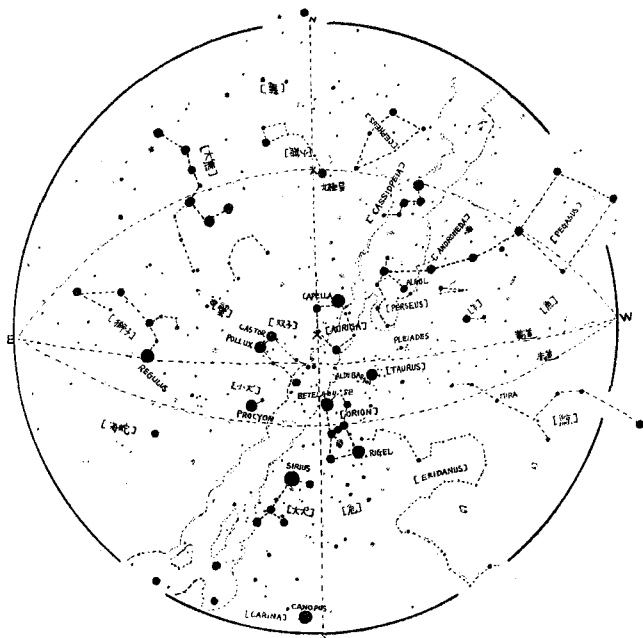
(恒星時 Sidereal Time 6時)

日本の中央部(京阪神地方)で

2月1日ならば午後9時

15日ならば午後8時

東京は約15分早く、福岡は約20分遅く現はる。但し時刻は日本中央標準時



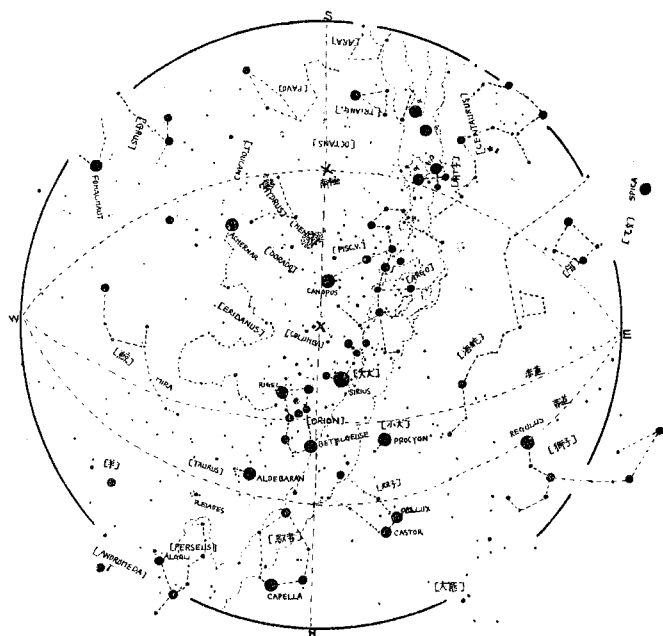
## Ⅲ—天 象

日 時	
二月 2 10	金星が近日點に
2 18	海王星と月と會合
5 13	金星が内合
6 3	木星と月と會合
8 3	木星が停留
8 15	土星が合
9 8	水星と金星と會合(水星 0°8'北)
13 8	金星と月と會合
14 —	日食

日 時	
14 2	土星と月と會合
15 9	火星と月と會合
15 18	水星と月と會合
18 13	水星が近日點に
18 20	天王星と月と會合
19 15	木星が遠日點に
24 15	水星停留
25 8	金星停留
27 16	水星と火星と會合(水星4°28'北)

## 今年二月の 南天

今度から始めて、年に4度、南半球に住む人々のための星空案内圖を畫く、此の圖は南緯36あたりの地に住む人々のために畫いたものである。今月の圖の恒星時は、第159頁のと同様に6時0分である。



### 南の星空

今が夏の真盛りの南國では、日没後、まもなく南々東の空から北々西へ銀河の帯が天頂をよぎり、オリオン、大犬、馭者等の美しい星座が子午線に迫る。エリダン河と其の南端にあるカノープス巨星も見事である。南東の空からは十字架とセンタウル座の二巨星が昇つて、來てやがて訪れる秋冷の氣候を約束するやうに見える、南極からカノープスへの中には南天獨特の大マゼラン雲が今最も良い觀望時機であるが、南西のかなり高い空には小マゼラン雲も見えてゐる。又、双眼鏡で、アルゴ船の大星座を見るのも面白い。